



仰木 と 仰木の里  
お隣同士のガイドブック

# 最短距離の おいしい関係



## 仰木・仰木の里の共生

「食」を自らの手で  
となりあった生産地と消費地が  
地産地食で持続可能なまちづくり





## もくじ

### 1 仰木地区と仰木の里地区

地域の紹介	02
数字で見る地域の課題	03

### 2 農村 RMO 仰木地域共生協議会の紹介

協議会の紹介	
農村 RMO (農村型地域運営組織) とは	04・05

### 3 農村 RMO 仰木地域共生協議会の活動

協議会のミッション	
協議会で行うこと	06

#### これまでの活動紹介

● 農用地保全	07
● 地域資源活用	08
● 生活支援	09

#### 今後の活動

● 農用地保全	10
● 地域資源活用	11
● 生活支援	12

協議会よりご挨拶	13
----------	----

応援コメント	14
--------	----



上.仰木地区 下.仰木の里地区



#### ● ロゴマークの紹介 ●



### 仰木地域共生協議会

仰木と仰木の里を寄り添う  
 ひとに見立て、2つの集落が  
 共生し、農業活動や地域のさ  
 さえあいを通じた持続可能な  
 関係をつづけていこうという  
 思いを表しています。

# 1 | 仰木地区と仰木の里地区

※ここでの仰木の里地区は、仰木の里、仰木の里東、雄琴北を指しています。

## 〈 地域の紹介 〉

仰木地区と仰木の里地区は、比叡山のふもとに位置しています。仰木地区は古く延暦寺の荘園を起源としており、仰木の里地区は約40年前に新興住宅地として整備されました。隣り合う地区ながら、二つの町は互いに違う特徴を持っています。

昨今、仰木地区では少子高齢化が進み、離農による耕作放棄地が増加しているため、農業生産の維持や農地の保全が必要になっています。また今後、高齢者の買い物支援や見守りなども求められるようになり、地域一体での課題解決が不可欠です。

その一方、仰木地区には、農業はもとより、美しい里山の風景や歴史ある祭事が現存し、地域資源が多くあります。例えば、創建667年の小椋神社は、仰木地区だけではなく、仰木の里地区の住民にとっても、故郷を感じられるような存在となっています。

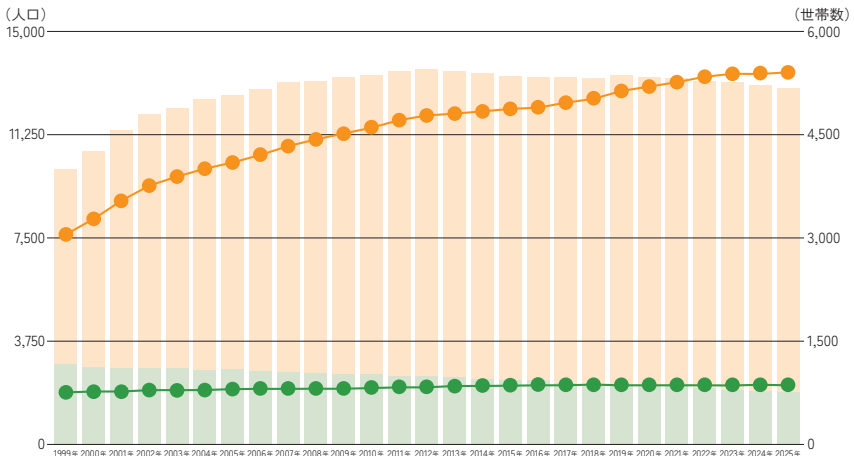
	仰木地区	仰木の里地区
( 歴史 )	1350年 比叡山延暦寺の荘園	約40年 新興住宅地
( 環境 )	美しい棚田と森林の里山	計画的市街地開発
( 人口 )	約1,800人 少子高齢化・人口減少	約13,000人 幅広い年齢層、 高齢者の人口増
( 地域資源 )	農地・森林・水源・社寺祭礼	さまざまなキャリアを持つ人財
( 学校 )	小学校 (全校生徒 約50人)	保育園、幼稚園(2園)、小学校(2校) 中学校、高等学校、大学
( 店舗 )	農作物直売所 (土日)	スーパー2店舗 コンビニエンスストア2店舗、 他飲食店
( 祭事 )	歴史ある社寺と祭礼	—————
( 病院 )	—————	内科、小児科、歯科など
( 公園 )	なし (集落がすべてが公園)	計画的に配置された公園



## 〈 数字で見る地域の課題 〉

仰木地区では、少子高齢化による人口減少が続いています。仰木の里地区（仰木の里東を含む）では、2013年がピークになるものの人口はほぼ横ばい、世帯数は微増しており、年齢別で人口を見た際にも、生産年齢人口の割合が比較的高く、幅広い年齢層が在住していることが分かります。

### ▼仰木地区、仰木の里地区の人口、世帯数の推移



(人口) ■ 仰木地区 ■ 仰木の里地区 (世帯数) ● 仰木地区 ● 仰木の里地区  
(大津市 人口統計表を元に作成)

### ▼仰木地区、仰木の里地区の年齢別人口統計

	(人)	0～14歳	15～64歳	65～79歳	80歳～	合計
仰木地区	計	107	880	469	283	1,739
	男	63	454	213	109	839
	女	44	426	256	174	900
仰木の里地区	計	1,561	7,418	2,860	1,027	12,866
	男	796	3,613	1,418	442	6,269
	女	765	3,805	1,442	585	6,597

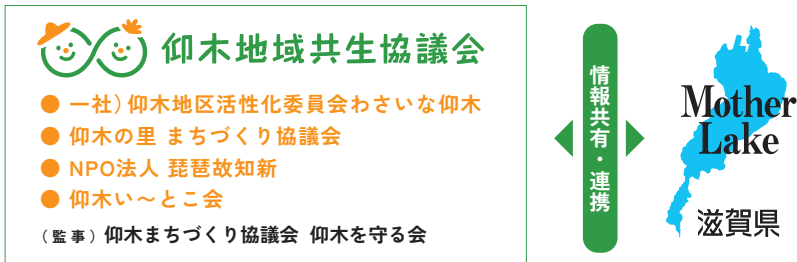
(大津市 人口統計表を元に作成)

# 2 | 農村 RMO 仰木地域共生協議会の紹介

## 〈 協議会の紹介 〉

仰木地域共生協議会は、国の支援を受けて運営を行う農村 RMO（農村型地域運営組織）です。仰木地区、仰木の里地区の各組織と共に、少子高齢化の進行により、顕在化する農業生産活動の課題だけでなく、経済活動を通して地域資源の活用や生活支援に取り組みます。

※ RMO とは (Region Management Organization) の略で地域運営組織を意味します。



## 〈 農村 RMO（農村型地域運営組織）とは 〉

複数の集落の機能を補完して、農用地保全活動や農業を核とした経済活動と併せて、生活支援等地域コミュニティの維持に資する取組を行う組織のことを表します。

(農林水産省 HP を元に作成)



「農村空間を管理」し、農産物供給、景観、レクリエーション等「地域資源」を活用、さらに交流や居住等「生活」の空間として活用。



臨時総会（2025年8月）の様子



愛土農園へのセンサー設置協力



農林水産省事業 オーガニックプロデューサー来訪



仰木の里まちづくり協議会への参加



桜谷地域農村RMOとの意見交換



# 3 | 農村RMO 仰木地域共生協議会の活動

## 〈 協議会のミッション 〉

仰木地区、仰木の里地区は、隣り合いながら、互いに異なる特徴を持つ地域として成り立っています。私たちは、「もの・ひと・こと」を通じて両地区の交流を深めたいと考えています。

まず、仰木地区の耕作放棄地を交流農園として再生し、その収穫に仰木の里地区の皆さんにも参加してもらうことで、農業の楽しさに触れていただきたいと思っています。そこで、仰木地区に関心を持っていただくことで、生産地と消費地としての両地域のつながりをつくりたいと願っています。

農業を通じたつながりから、地域資源でもある社寺・祭礼などの保存や防犯・防災などの生活支援に係る活動を共同で行える関係をつくりたいと考えています。

## 仰木・仰木の里の共生

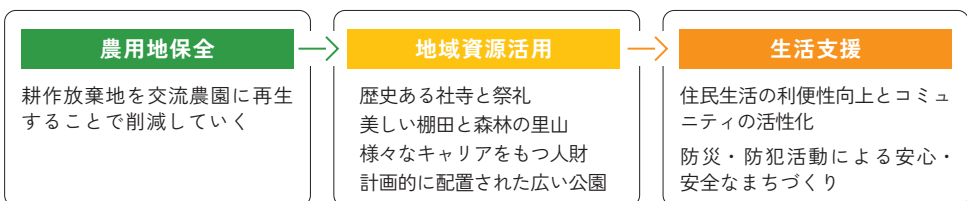
「食」を自らの手で、となりあった生産地と消費地が地産地食で持続可能なまちづくり



## 〈 協議会で行うこと 〉

農作物の生産地である仰木地区と「顔の見えるお隣同士」である消費地の仰木の里地区が、無理をせず交流農園でグループ栽培に取り組める環境づくりを実践していきます。

耕作放棄地の拡大に歯止めをかけながら、地産地食（栽培、収穫、消費）を通じて、両地域の交流を創出、持続可能な農業を行い、販売で得られた収益を生活支援の充実に還元します。



これまでの  
活動紹介



〈 農用地保全 〉

雑草が伸び放題の耕作放棄地をみんなで草刈りしました。



みんなでキレイにした畑で収穫する野菜は最高です。



寒い日も暑い日もみんなでやれば楽しく作業ができます。



## 〈 地域資源活用 〉

交流農園でとれた野菜は、直売所で販売しています。



仰木の里まちづくり協議会と連携し、仰木の棚田米を販売しました。





## 〈 地域資源活用 〉

成安造形大学と仰木地域をめぐるイベントを開催しました。



## 〈 生活支援 〉

安心して登下校ができるよう、地域の防犯活動を応援しています。





## 〈 農用地保全 〉

地域の農用地保全、未就農者を含む農業の担い手の育成、農作物を通しての関係人口増加および、スマート農業の活用を通じた持続可能な農業の実現を目指します。

※本協議会では、「中山間地域等直接支払制度」対象外の土地に対する取組みを進めています。

※スマート農業とは、「ロボット技術やICT等の先端技術を活用し、超省力化や高品質生産等を可能とする新たな農業」を指します。



### 活動計画

#### 2025 年度まで

- 昨年度から取組んでいる耕作放棄地を交流農園として再生する営みで「愛土農園」を開園。本格的に農作業を開始しました。
- 電気柵、カメラの設置で鳥獣害対策を行いました。
- 各種センサー(気温、湿度、日照、CO<sub>2</sub>)を設置し運用を開始しました。

#### 2026 年度

- 2,3年後の収穫を目指して行っている梅の収穫ができるようになるまで、いちじく、よもぎの栽培を行います。
- 交流農園での農作業を通して、将来的な農業の担い手の育成を開始します。
- 卸先のオーダーに対応する栽培の実施を開始します。

#### 2027 年度～

- 交流農園を拡大し、農業と収穫物の販売を通して、地域の関係人口増加を目指します。
- 各種センサーから得られたデータを経年で分析、地域で結果を共有することで、農作業への活用を目指します。



## 〈 地域資源活用 〉

仰木地区の豊かな環境と仰木の里地区の幅広い人財が地域資源だと考えています。交流農園での農産物栽培だけでなく、有機野菜によるブランド化、加工・販売等を通して付加価値創出を目指します。また、体験型イベントや食育セミナーなどを通じて、関係人口増を行います。

これらの取組みからできた交流をもとに、祭事や地域行事への両地区からの参加を促進することで住民の繋がりをさらに創出します。



### 活動計画

#### 2025 年度まで

- 「愛土農園」での草刈りや収穫などの農業体験を仰木の里地区からのサポーターを募り、実施しました。
- 仰木棚田米のおいしさを伝えるため、仰木の里地区への斡旋を行いました。
- 新中学生に向けた会や主催するワークショップ等で取組みを発信しました。

#### 2026 年度

- 交流農園で収穫した農産物を加工・販売するイベントを開催します。
- SNS アカウントの開設を行い、交流農園のサポーターや地域住民の交流の場を提供します。
- 両地区におけるイベント等での相互交流を実施します。

#### 2027 年度～

- 直売所だけではなく、地元スーパー、レストランやおごと温泉等での販売を目指します。
- 有機 JAS 基準に沿った農産物の生産による、慣行栽培との差別化によるブランディングを目指します。
- 地域の文化的行事への参加を通じた交流を図ります。



## 〈 生活支援 〉

これまでも地域の防犯で仰木地区、仰木の里地区は連携をしてきましたが、交流農園での農作業参加やイベントを通してできたつながりを元に、農作物の販売、買い物が困難な高齢者への宅配を行うことで、地域住民の利便性を向上、高齢者の孤立を解消し生活支援を充実させます。



### 活動計画

#### 2025 年度まで

- 仰木地区、仰木の里地区の両まちづくり協議会が行う防犯パトロール活動を応援しています。
- 仰木の里まちづくり協議会と連携し、仰木棚田米の仰木の里地区での販売を行いました。

#### 2026 年度

- 交流農園で収穫した農産物を販売、また、買い物が困難な高齢者に向けて宅配します。
- 地域の歴史や課題をテーマにしたワークショップの開催で、農業の枠を超えた住民の交流を創出します。
- 次代の担い手となる児童・生徒にむけて、教育機関と連携した総合学習を実施します。

#### 2027 年度～

- 交流農園で収穫した農産物を地域の飲食店や住民に向けて宅配することを検討します。
- 地域住民の利便性向上を目的に、直売所で購買する商品ラインナップの拡充や購入拠点を増やすことを検討します。
- 高齢者への農作物の宅配に加えて、見守りの実施を検討します。

## 協議会よりご挨拶

### 仰木地域共生協議会

会長

堀井 登



比叡の裾野に広がる仰木は、1350年の歴史を紡いできた「仰木地区」と、40年前に誕生した「仰木の里地区」から成っています。かつて一つの「仰木村」であったこの地で、私たちは2025年3月、農業を入口にした地域共生を具現化すべく本協議会を立ち上げました。

私たちの強みは、「生産地」と「消費地」が隣り合わせにあり、互いの顔が見える距離にいます。歴史ある農村の知恵と、多彩なキャリアや視点を持つ住民の力が混ざり合うこの連携こそが、10年20年先を見据えた持続可能なまちづくりの原動力となります。

農業を通じた協創の輪を広げ、二つのまちが共に歩む未来を、皆さんと共に築いていきたいと考えています。「明るく、楽しく、元気よく」次世代へ誇れるまちを、共に育んでいきましょう。

### 仰木まちづくり協議会

会長

中川 一良



仰木は古くからお米の生産を中心として人々の暮らしが営まれ、その歴史は千年を超え、豊かな歴史、文化に恵まれています。近年は減反政策により耕作放棄地が増加しています。こうした中、仰木地域共生協議会は、仰木の里の方が中心となって、農業の営みを土台に、地域資源の活用や暮らしの支援を進めることで、仰木地域と仰木の里地域の連携を強化しようと日々取り組まれています。両地域での協働の輪が広がることは、仰木のまちづくりを行ううえでも、とても重要です。仰木地域共生協議会の活動に、地域の皆さまのご理解、ご支援をいただければ幸いです。

### 仰木の里まちづくり協議会

会長

林 勉



仰木の里は、今から30年前、仰木学区の一員としてその歩みを始めました。

その後、独立学区となりましたが、時代の変化と共に自治会活動の希薄化という課題に直面。こうした中「地域自治の充実」を掲げて「まちづくり協議会」を発足し、＜防災・防犯・社会福祉を三本の柱＞として活動を展開しています。

本年度は、仰木地域共生協議会のご協力を得て、生産者と消費者をつなぐ「仰木棚田米の販売」を実施し、大変ご好評をいただきました。かつて同じ学区であった仰木と仰木の里が、今また「共生」という形で手を取り合う意義を深く実感しています。今後も、両地域の絆を深め、より安心で豊かな地域自治の充実に努めてまいります。

### 仰木を守る会

会長

猪飼 一仁



本協議会は、農村部（仰木学区）と住宅地（仰木の里学区）が手を取り合い、農業振興を核として生活支援や地域課題の解決に取り組む「農村RMO（地域運営組織）」です。伝統ある棚田や里山文化を次世代へつなぎ、多世代が安心して住み続けられる地域づくりを目指しています。

「仰木を守る会」は、本協議会の監事として、事業が適正かつ効果的に推進されるよう、透明性のある組織運営を支える役割を担っています。

学区の垣根を越えた「共生」の形を共に育んでいきましょう。皆様のご理解と温かいご協力をお願い申し上げます。

## 応援コメント

### 大津市 農林水産課 様



比叡山麓の仰木地区は、棚田に代表される美しい農村景観と、歴史ある農地が広がる地域です。しかしながら、担い手不足や生産効率の悪さ、獣害の多発などにより、耕作放棄地が増加しています。

仰木地域共生協議会が行う、耕作放棄地を再生した交流農園を起点とし、隣接する仰木の里地区と連携して地産地消や農業関係人口の創出を図る取組は、持続可能な農業・農村の実現に繋がるものです。

この取組が、地域の課題解決や活性化に向けて、今後、更に発展していくことを期待しています。

成安造形大学

副学長

加藤 賢治 様



仰木は1350年という歴史が伝説で語られる集落であり、近世の民俗文化が色濃く残る場所です。

特に比叡山延暦寺の横川地区の麓に位置し、古来そのつながりが習俗の中に見られます。

近代社会の中で便利さが優先され、モノに溢れる豊かな社会と言われるようになりましたが、日本人が大切にしてきた、拠り所である神仏を敬う心、モノを大切に扱う風習などがまだ仰木にはあります。

一方、仰木の里は幼稚園から大学までが立地する新興住宅街であり、若い世代が暮らす現代の街です。

この2つの融合から、新しい地域社会のかたちが生まれると期待しています。

### 大津市立 仰木中学校 校長 河野 卓也 様



仰木の歴史・伝統と仰木の里の賑わいは、仰木中学校で初めて一つになります。そして、三年間お互いを高め合って大きな力を蓄えた生徒たちは、さらに広い世界へと羽ばたき、地域を支える存在となっていきます。中学校は束ね、高め、送り出す地域の「ハブ」であり、子どもたちの学びを通して地域社会に新たな活力が生まれることを強く期待しています。

これまで地域に支えていただいていた子どもたちや学校が、これからは地域社会の中核として交流や情報発信を進めていく。そんな未来の子ども・学校像を描きながら、子どもたちの活躍の場を作っていきたいと思えます。中学生の底知れぬパワーを地域に活かしていけることにワクワクしています。どうぞ、よろしくお願いいたします。

### 大津市立 仰木中学校 生徒会長 杉生 響 さん



仰木地域共生協議会様には、中学校で行われた「仰木サミット」の中で講話をいただきました。

その際には、仰木地域の未来につながる話し合いができたと思います。

児童、生徒たちが仰木地域のつながりを強化するに当たってできるのは、自分たちで地域活動に参加することだという意見が多くありました。

このように自分たちから動いて、地域を素晴らしいものにするという思いが、参加した学生全員の心の中にあっただと思います。今後も地域での交流を深めたいと思います。



仰木・仰木の里は  
みんなの故郷



仰木地域共生協議会



仰木と仰木の里 お隣同士のガイドブック  
最短距離のおいしい関係

発行年月日／2026年3月 発行／仰木地域共生協議会  
住所／〒520-0247 大津市仰木4丁目2-25 電話／070-4220-3176  
ウェブサイト／<https://ogi.shiga.jp/>  
※本書掲載内容の無断転載は固くお断りします。

